



# 増加する梅毒にご注意を！

令和3年9月22日  
富山県感染症情報センター  
(0766-56-5431 直通)

## 感染症発生動向速報

(令和3年第37週分・9月13日～9月19日)

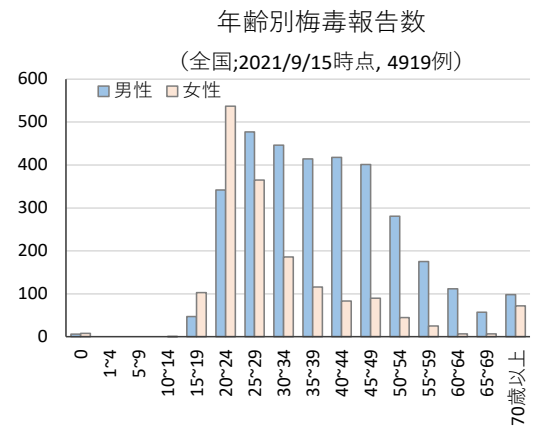
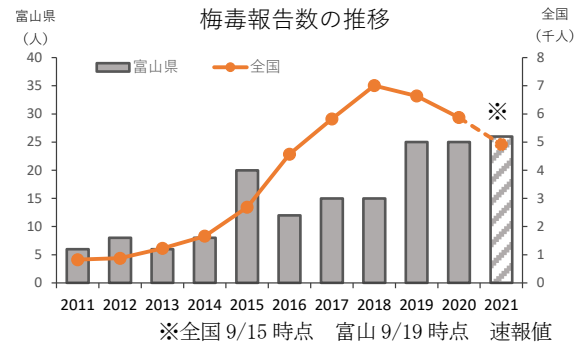
### 《インフォメーション》

#### ●梅毒

近年増加が続いていた全国の梅毒の年間報告数は、2019年から減少傾向となっています。一方では、複数の地方都市で報告数が増加しています。また、感染経路としては2015年頃から異性間性交渉による感染が急増しています。県内では2019年から年間20例以上と増加しており、今年9月時点で26例が報告されています。(上図)。全国での患者の年齢層は、男性では20～50歳代、女性では20歳代に多くなっています(下図)。

梅毒は、梅毒トレポネーマ(細菌)を原因とする感染症です。妊婦が感染することで胎児が感染する「先天梅毒」と、性交渉の際、梅毒患者の病変部に接することで感染する「後天梅毒」に分けられます。後天梅毒の症状の進行は下表の3期に分かれており、様々な症状の出現と消失を繰り返します。

近年は早期顕症梅毒の割合が増加しています。感染予防の基本は、不特定多数との性交渉を避けることです。感染リスクを低下させるためには、コンドームの使用が不可欠です。梅毒は抗菌薬による治療が可能な疾患です。心あたりのある性交渉から3週間経過した頃に陰部等に異常所見を認めた場合は、早めに医療機関を受診しましょう。また、梅毒に感染した人では、そのパートナーも感染している可能性があります。パートナーも検査を受けることが重要です。



早期顕症梅毒 (第Ⅰ期)	感染から約3週間後に感染部位の皮膚や粘膜に硬結ができますが、2～3週間で消失します。
早期顕症梅毒 (第Ⅱ期)	約3か月後には全身に赤い発疹(バラ疹)が出現します。この他に発熱や全身倦怠感など様々な症状が出現しますが、数週間～数か月で消失します。
晩期梅毒	約3年以上経過すると、皮膚や粘膜、骨を中心としてあらゆる臓器にゴム腫と呼ばれるしこりができ組織を破壊します。また心臓や脳、脊髄など複数の臓器に病変が出現し、これらが死につながる場合があります。

### 《全数報告の感染症》

- 新型インフルエンザ等感染症 新型コロナウイルス感染症 62件
- 二類感染症 結核 3件 (①第36週診断分: 80歳代、男性 ②80歳代、男性 ③90歳代、男性)
- 三類感染症 腸管出血性大腸菌感染症 1件 (20歳代、男性、O157、VT2)
- 四類感染症 レジオネラ症 2件 (①40歳代、男性、肺炎型 ②50歳代、男性、肺炎型)
- 五類感染症 劇症型溶血性レンサ球菌感染症 2件 (①第36週診断分: 70歳代、女性、B群 ②30歳代、女性、G群)

梅毒 1件 (20歳代、女性、無症候)

### 《定点報告の感染症》

今週の県内上位6疾患		定点あたりの数	
順位	疾病名	今週 (増減)	先週
1位	感染性胃腸炎	2.14 (↑)	2.00
2位	ヘルパンギーナ	0.66 (↑)	0.21
3位	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.45 (↑)	0.31
4位	RSウイルス感染症	0.34 (↑)	0.31
5位	突発性発しん	0.21 (↑)	0.17
6位	水痘	0.07 (↓)	0.10

○感染症発生動向調査報告状況（令和3年第37週 令和3年9月13日～令和3年9月19日）

分類	疾患	今週報告分（第37週）							累積報告数（令和3年第1週（1月4日）～）						
		新川	中部	高岡	砺波	富山市	その他※1	計	新川	中部	高岡	砺波	富山市	その他※1	計
新型インフルエンザ等感染症	新型コロナウイルス感染症	1	3	12	5	39	2	62	366	278	1,055	289	2,087	94	4,169
二類感染症	結核					2		2	10	6	27	11	45		99
三類感染症	腸管出血性大腸菌感染症					1		1		1	6	1	5		13
四類感染症	E型肝炎								3				2		5
	A型肝炎								1						1
	つつが虫病								1						1
	レジオネラ症	1				1		2	2	3	12	1	8		26
五類感染症	アメーバ赤痢								1				1		2
	ウイルス性肝炎								2				1		3
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症										2	2	4		8
	急性脳炎										1		1		2
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症			1				1			5	1	2		8
	後天性免疫不全症候群								1			2	1		4
	侵襲性インフルエンザ菌感染症										1	1	1		3
	侵襲性肺炎球菌感染症								1		2		12		15
	水痘（入院例）												1		1
	梅毒			1					1	1	1	5		19	26
	播種性クリプトコックス症												2		2
	破傷風											1			1
	定点疾病 (下段は定点当たりの患者数を示す)	インフルエンザ										5			
RSウイルス感染症		1 0.25	4 1.33		2 0.50	3 0.30		10 0.34	131	130	1,576	391	822		3,050
咽頭結膜熱									38	38	135	7	141		359
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		3 0.75	1 0.33	2 0.25	1 0.25	6 0.60		13 0.45	66	39	443	84	231		863
感染性胃腸炎		14 3.50	15 5.00	7 0.88	8 2.00	18 1.80		62 2.14	643	357	537	193	1,177		2,907
水痘			1 0.33			1 0.10		2 0.07	1	12	27	13	49		102
手足口病									7		14	2	14		37
伝染性紅斑									1	1	9	1	19		31
突発性発しん		1 0.25		5 0.63				6 0.21	48	30	124	45	110		357
ヘルパンギーナ			12 4.00	2 0.25		5 0.50		19 0.66	26	23	83	4	20		156
流行性耳下腺炎					1 0.25			1 0.03	2	2	9	7	12		32
流行性角結膜炎									3	1					4
細菌性髄膜炎													2		2
無菌性髄膜炎													2		2
マイコプラズマ肺炎										1	9	1			11
感染性胃腸炎（ロタウイルス）									1						1
インフルエンザによる入院患者（※2）				1			1				1			1	

本週報のデータは速報値であり、今後、調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがあります。 ※1 その他は県外、居住地非公表分です。 ※2 インフルエンザによる入院患者累計報告数は、令和3年第36週（9月6日）～の集計です。